



## 課題は「再び安倍政治を許さない！」だろう

先の総選挙ではほとんどの選挙区で野党共闘が成立し、与野党一騎打ちの選挙が闘われ議席は減ったが、野党共闘の成果は十分にあつたといえます。選挙後、自民党は最大派閥の細田派が安倍元首相の会長就任を決定し「安倍派」が発足しました。安倍元首相は総会で、日本維新の会や国民民主党が議席を増やしたことを受け、国会での改憲論議を加速させることに意欲を示しました。

安倍元首相は森友学園や「桜を見る会」をめぐる疑惑について、国民が納得できる説明を避けたまま、岸田政権を支える最大派閥のトップとなり、これまでに以上に強い影響力を発揮することになるでしょう。自民党の政治論理は男系男子の天皇制や、家族制度維持を理由とする夫婦別姓の拒否など、この社会

の多様性を認めようとしません。そして軍事拡大、脱原発反対など、懐古主義と権威主義、企業利益と経済拡大優先の志向がまかり通ることになります。

小選挙区制という選挙制度のもと、35%しか支持されていない自民党が衆議院の65%の議席を得て、政権につき支配しています。国民の半数が反対しているものでも、3割の強固な自民党支持層が離反しない限り気にすることはないので、現政権は国民の多数を代表しているとはいえません。このような政治は根底から変えなければなりません。労働組合は22春闘を精いっぱい闘い大幅賃上げを勝ち取りましょう。

そして夏の参院選挙では、市民と野党共闘を前進させ勝利しましょう！

労働大学企画編集委員 奥山 信義